

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 台風第6号については最新の台風予報を参照。
- 6月2日は、高気圧が日本の東を東へ移動する。台風第6号は、沖縄付近を北上して西日本に近づく。
- 3日から4日にかけて、台風第6号は日本の南から日本の東へ進む。
- 5日から6日にかけて、低気圧が日本のはるか東に進み、オホーツク海の高気圧が日本海に張り出す。前線が大陸から東シナ海にのびる。

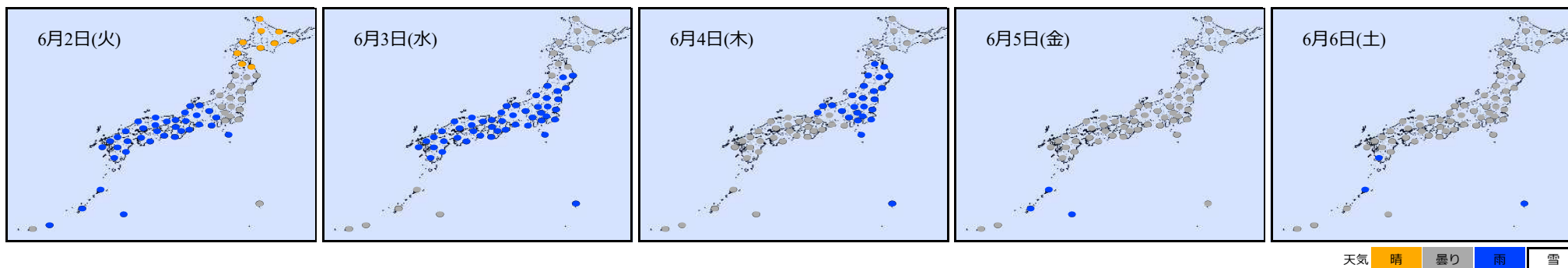
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 西日本と沖縄・奄美では、台風第6号の影響で、3日にかけて、大荒れや大しけ、警報級の大雨となる所があり、台風の進路等によっては、警報級の高潮となるおそれがある。
- 東日本と北日本では、台風第6号の影響で、3日から4日頃にかけて、警報級の大雨や大しけとなる所があり、台風の進路等によっては、大荒れとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

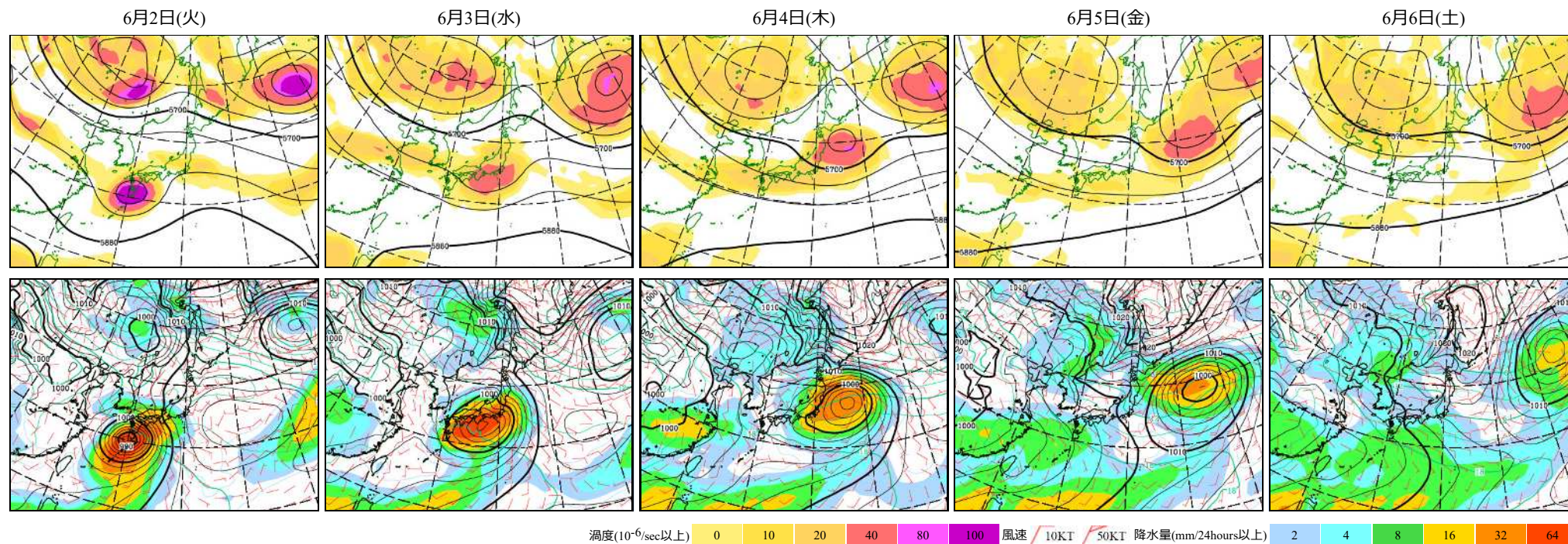
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

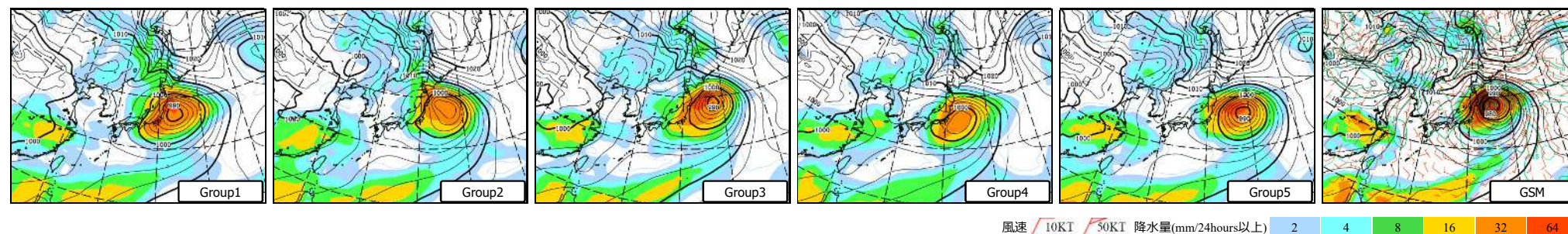


- 北日本は、6月2日は晴れる所が多いが、その後は雲が広がりやすく3日と4日は雨の降る所がある。
- 東日本は、雲が広がりやすく、2日から4日にかけて雨の降る所がある。
- 西日本は、雲が広がりやすく、2日から3日にかけてと6日に雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、2日と5日から6日にかけて雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月4日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはないが、6月4日は、台風に対応した渦が日本の東を北東に進む予想になった。地上の気圧配置は、大きな初期値変わりはない。
- 6月3日頃までは、各モデルともに初期値変わり小さく、モデル間の差は小さい。
- 4日は、各モデルともに台風または台風から変わる低気圧を日本の東に進めているが、低気圧の位置にはモデル間の差がある。ENSは、それぞれのモデルに近いメンバーを含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基本に考える。